

世界中のオペラファンを魅了してきたドミンゴ、最後の来日公演

オペラ界のレジェンド、
永遠のスーパースター



Plácido Domingo

プラシド・ドミンゴ プレミアムコンサート

出演：プラシド・ドミンゴ
モニカ・コネサ(ソプラノ)
指揮：マルコ・ボエーミ
東京フィルハーモニー交響楽団

2026年 **5/7** 木 NHK ホール
18:30 開演
(17:30 開場)
S席 42,000円 A席 35,000円
B席 28,000円 C席 21,000円
(全席指定・税込)

11月29日 10:00 発売

©Fiorenzo Niccoli

演奏予定プログラム

- 第1部** 『イタリア・オペラのアリアとデュエット』
ジョルダーノ 歌劇《アンドレア・シェニエ》より第3幕「祖国の敵」
プッチーニ 歌劇《トスカ》より第2幕「歌に生き、愛に生き」
ヴェルディ 歌劇《マクベス》より第4幕「裏切者め！ 憐み、誉れ、愛」
ヴェルディ 歌劇《トロヴァトーレ》より二重唱 など
- 第2部** ウィーン・オペレッタ、イタリア・カンツォーネ、
スペイン・サルセラなど世界の名曲をお届けします

※やむを得ず、曲目は変更となる場合がございます。

チケット取り扱い

コンサート・ドアーズ チケットセンター
03-6851-5966 (10:00~19:00)
<https://concertdoors.com/>
チケットぴあ (Pコード: 312-539)
楽天チケット
e+(イープラス)

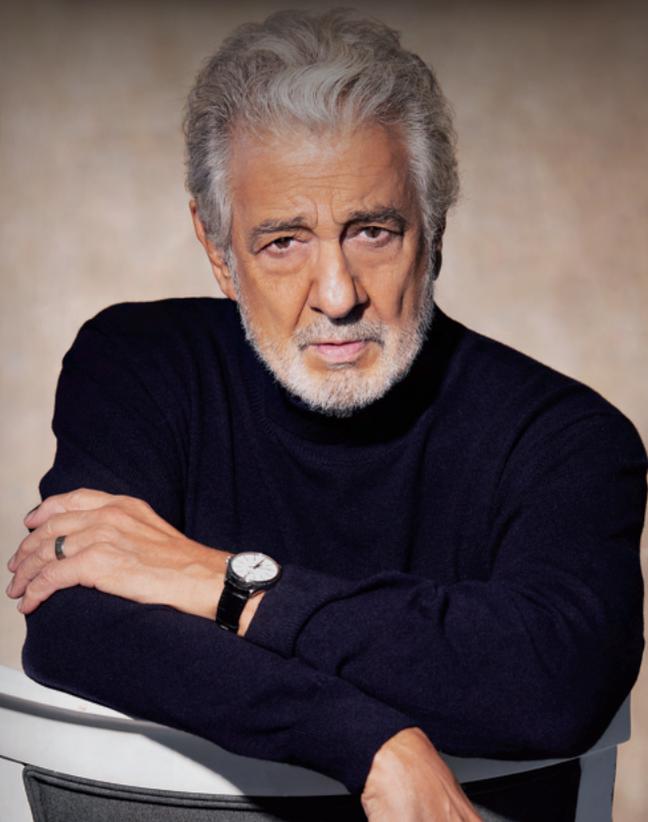
※未就学児のご入場はお断りさせていただきます。
※お申し込みいただいたチケットのキャンセル、
変更はできません。

記憶に残るラストコンサートをお見逃しなく



プラシド・ドミンゴ 最後の来日

全世界の主要歌劇場でのオペラ出演、
三大テノール公演、
壮大なアリーナ会場での
ガラコンサート…
65年の歌手人生の総決算が実現！



奇跡を体験し伝説に参加する最後のチャンス

香原 斗志(オペラ評論家)

プラシド・ドミンゴという名は、オペラ史上稀な大歌手として、すでに伝説の域に到達している。それでいて、世界中で無数に残した伝説の上に、新たな伝説をさらに積み上げている。1959年にデビューしてから66年。いまなお現役というだけで信じたがい、これだけのキャリアを経たうえで、歌うたびに伝説を生んでいるという事実がまた伝説的である。

逆説的な表現になったが、ドミンゴという存在が逆説的なものだから仕方ない。2025年1月で84歳になったドミンゴ。この年齢にして舞台上で歌った歌手は過去にもいるが、一般には声を出せても息が続かない。コンサートを歌い切るなど夢のまた夢だ。ところが、ドミンゴは昔と変わらずコンサートをこなす。適切なフレージングでレガートの旋律を長く美しく歌い上げる。

その歌には、長いキャリアを重ね、酸いも甘いも知り抜いていればこそ、唯一無二の味わいが滲む。残念ながら若い歌手は、十分な深みと味わいを獲得するころには、声が失われている。だが、ドミンゴにかぎっていまも声があふれる。だから、その歌はかけがえのない味わいが、圧倒的なオーラの下から滲み出る。ほかのだれにも不可能だった奇跡である。

全盛期のドミンゴは艶やかな声がむせ返るように香り立ち、歌唱はどこまでもノーブルだった。指揮や作曲にも精通し、音楽性の高さは並み居る名歌手たちを寄せつかなかった。

だが、それは昔語りではない。いまも艶やかな声を輝かせ、ノーブルなフレージングも健在だ。昔と同じとはいわない。だが、若い世代でも、これほど力強い声を正しく響かせ、聴き手をねじ伏せる歌手が、世界中にどれだけいるだろう。

一世を風靡した「3大テノール世紀の競演」から35年、ドミンゴは当時と同レベルの伝説をいまも残し続ける。これが最後の来日なのは、余力があるうちに退くということか。ここでドミンゴを聴くことは、奇跡を体験し、伝説に参加する最後のチャンスになる。

Profile

香原 斗志 (オペラ評論家)



©Fiorenzo Niccoli

プラシド・ドミンゴ Plácido Domingo (テノール、バリトン)

ドミンゴほど著名かつ多面的なアーティストはいない。1941年にスペインのマドリッドで生まれ、スペインの国民歌劇「サルスエラ」の劇団を主宰する両親とともにメキシコに移住し、メキシコシティ国立音楽院を修了。59年にメキシコ国立歌劇場にデビューした。70年代にはもう世界の一流劇場や音楽祭を席巻し、公演ごとに熱狂を巻き起こすトップスターだった。90年からはパヴァロッティ、カレーラスとともに「三大テノール」として世界中を沸かせた。オペラのレパートリーは150を超え、こなした公演数は4000以上。ミュージカルもポップスも歌い、指揮者としても活躍する。プロとして歌いはじめて65年以上が経過したが、艶がある魅惑的な声もノーブルな表現力も健在で、いまなお若い歌手を寄せつけない。ドミンゴほど声を維持して長く歌い続けた歌手は、過去に例がないのではないだろうか。まさに「不世出の歌手」で、いまなお快進撃を続けるのは驚異としかいいようがない。

モニカ・コネサ Monica Conesa (ソプラノ)

若きマリア・カラスを彷彿させるキューバ系アメリカ人のソプラノ。26歳だった2023年夏、ヴェローナ野外劇場で《アイダ》、ラヴェンナでムーティ指揮《ノルマ》と、それぞれ題名役を歌って絶賛され、一躍注目された。芯がある声をドラマティックに響かせ、弱音まで精密に制御する。すでに《ラ・ジョコンダ》や《トスカ》の題名役、《フィガロの結婚》の伯爵夫人等にデビュー。2024年のドミンゴのコンサートでも、超新星の登場を強く印象づけた。陰のある硬質な声を全音域で自在に操り輝かせる歌唱は比類ない。

